



今人家類頌夏之部目錄

乾坤之部

四月	一	初月	一	更衣	一	初拾	二
拾	二	滿板	二	夏簾	三	花所卷	三
佛生會	三	灌佛	三	夏書	四	夏鏡	四
筑大祭	四	大矢教	四	葵祭	四	祭	四
初輕	五	和魚	五	築打	五	鮎	五
新茶	五	鮎	五	夏板	六	短夜	六
四安板	六	德夏	七	夏秋	七	新夏	七
五	七	蚊帳	七	絨帳	八	五月	八
初帳	八	帳	八	飭塊	九	茶玉	九
葛蒲酒	九	鯨	九	柏餅	九	印地打	九

號馬	十	涕雨	十	有雪	十	五月雪	十
五月雨	十一	五月雨	十一	物雨	十一	入梅時	十一
五月	十一	五月	十二	早苗	十二	田植	十三
早乙女	十三	吉田	十三	田字取	十四	夜理	十四
夜山	十四	火岸	十四	照射	十四	河心結	十五
仲夏節	十五	布油苦干	十五	日傘	十五	汗拭	十五
汗	十六	扇	十六	團扇	十六	帷子	十七
过花	十七	衣羽織	十七	扇羽織	十七	單物	十七
六月	十八	水燈月	十八	水字	十八	夜水	十八
水餅	十八	富生治	十八	祇園會	十八	餅	十九
嘉定	十九	雨乞	十九	水賣	十九	心太	十九
一杯酒	十九	冷麦	廿	普水	廿	水飯	廿

冷物	廿	冷汁	廿	麻地酒	廿	瓜	廿
冷瓜	廿一	雪峰	廿一	夜吐取	廿一	夜局	廿二
晝孫	廿二	土用	廿二	土用干	廿二	虫干	廿二
暑	廿三	尖天	廿三	日盛	廿三	夕立	廿三
簞	廿四	籠枕	廿四	竹婦人	廿四	芦屏風	廿四
涼	廿四	納涼臺	廿五	納涼	廿五	風簾	廿六
青嵐	廿六	打水	廿六	晒井	廿七	清水	廿七
川結	廿七	海月取	廿八	小鱈	廿八	冲鮓	廿八
秋迄	廿八	秋待	廿八	夜神祭	廿八	茅福	廿八
形代	廿九	川社	廿九	河枝	廿九		
時名	卅	生	類之部	老名	卅二	新川	卅二
		深古名	卅一				

五月

初
懺

此の心を初めて 初懺 江
 引河の之寸百の事 五月 涼
 兼実子 移く事 五月 因
 ありと 酒月 五月 其
 川者の言を流す 五月 活
 悔 終る 而れ 五月 山
 あり 水子 事 五月 井
 川 あり 事 五月 双
 西 悔を 事 五月 南
 縣 あり 事 五月 瓦
 事 あり 事 五月 好
 不 聖乃 事 五月 但

十八

懺

世

葛

此の心を初めて 懺 世 葛
 新き中 懺 世 葛
 常 終本の 懺 世 葛
 事 あり 懺 世 葛
 心を 懺 世 葛
 末 信 懺 世 葛
 事 あり 懺 世 葛
 葛 あり 懺 世 葛
 葛 あり 懺 世 葛
 葛 あり 懺 世 葛
 葛 あり 懺 世 葛

五月晴

五月晴の日はあけぬ人のまゝ
 河津のりよと船人と遊ん 遊
 子よあまき船の帆や五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 子あけぬ人のまゝ五月晴
 さあゆれや舟や舟の雲はく
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく

五月晴
 河津のりよと船人と遊ん
 子よあまき船の帆や五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 子あけぬ人のまゝ五月晴
 さあゆれや舟や舟の雲はく
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく

五月雨

五月雨の日はあけぬ人のまゝ
 河津のりよと船人と遊ん 遊
 子よあまき船の帆や五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 子あけぬ人のまゝ五月晴
 さあゆれや舟や舟の雲はく
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく

五月雨
 河津のりよと船人と遊ん
 子よあまき船の帆や五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 子あけぬ人のまゝ五月晴
 さあゆれや舟や舟の雲はく
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく

五月晴

五月晴の日はあけぬ人のまゝ
 河津のりよと船人と遊ん 遊
 子よあまき船の帆や五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 子あけぬ人のまゝ五月晴
 さあゆれや舟や舟の雲はく
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく

五月晴
 河津のりよと船人と遊ん
 子よあまき船の帆や五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 子あけぬ人のまゝ五月晴
 さあゆれや舟や舟の雲はく
 五月の月や舟や舟の雲はく
 五月の日はあまき五月晴
 五月の月や舟や舟の雲はく

火事

花小也人々多北山何う耶
 降しつゝををりしきや家の山
 多山を越しけりおれぬ事
 本やや多山おれり可也か
 何れや火事よ近き處の空
 雨もあつて風がしお火事我
 中下り火事出き海うか
 立より核船へゆく火事うか
 雨もあつて大樹の中は空津年
 此後空より降り照射う耶
 照射う少雨の中を降りる
 雲の身お内ふり灯や照射の留り

晴載 西崎 由葵 第古 御風 丁知 船家 智貴 文奴 栗人 台峯 南映

照射

神の精

竹皮着

布湯若干

日傘

雨も小雨のり多し照射う耶
 嵐もあつて照射のすまふ
 雲も揚り方々照射の神の精
 方々つのおおし照射の神の精
 神の精り時刻をきき定む星
 雨風もあつて神の皮
 降しつゝあつて神の皮
 吹つて風もあつて神の皮
 出這乃至神の皮
 朝曇り神の皮
 曇り神の皮
 是れおれり神の皮

素山 生布 小柄 文奴 一の 二紀 紫人 流流 祖心 一之 祖心 伯遠

冷汁

休き給ふ時ぬ掛字や冷汁 抽心山
 月も明き宵の端指や中にも花
 袴ももして出て中冷汁 山阿
 冷汁や暮るる時 新由松
 すまれも口を答ふる時冷汁 祖心
 味ひて清き朝ぬ麻地酒 花外
 ちよとちよとをふるや麻地酒 由松
 露乾の上の薫るや冷汁 涼花
 寸はきをむも又さる冷汁の味 共鳴
 仇の香や薫るも又中冷汁の危 方松
 振之れに仇の香の寸もあやめ 心松
 妍さるるをむも又さる冷汁の味 梅岐

麻地酒

仇

冷仇

雪峰

清雪下るるを仇の風情より好 古翠
 市中や日ぬり梅子冷汁 仇塞馬
 献立乃お子出ふる中仇 恒朝
 ちよとちよとをふるや麻地酒 純白
 地も雪の下りつらぬや雪の峰 季吹
 雪の峰月を眺むる時 興理
 抱下はる雪の猫や雪の峰 一素
 夕の夕紅まや冷城寸川向ふ山 山
 舟場も夕紅まや冷城寸川向ふ山 山
 露もももももももももももも 友南
 雪の雪ももももももももももも 保水
 海東やととととととととととと 雪松

日盛

空天や青水暮辺世 五
 塗物も実夫のり紅埃のり春 秋
 の暮も一葉伸く子の暮 清
 りさうや川を渉秋家も明き 甚
 の暮もや暮れせむ恒のうも 梅
 のさうや宵てん中埃のうも 乙
 夕立の止原もまじぬる春 梅
 夕立やねも梅もはく白じ 只
 夕立の濁りもすそ江の月ね 斗
 海澄んも夕立静り明り 吾
 夕立のあや中風吹家の中 涼
 夕立をねも夕立静り明り 空
 夕立をねも夕立静り明り 廣

夕立

筆

申多しの浮城も言や雁乃上 其
 夕立のりや中ね海ねく 露
 ねも夕立のりや中ね海ねく 芳
 夕立やねも梅もはく白じ 梅
 夕立の濁りもすそ江の月ね 由
 月のおぼろのハ春もあつた 多
 涙水もも涙もあつたあつた 春
 涙のりや中ね海ねく 文
 青葉も涙もあつたあつた 叔
 空も夕立のりや中ね海ねく 孝
 夕立のりや中ね海ねく 一
 夕立のりや中ね海ねく 之
 夕立のりや中ね海ねく 素

枕

竹婦人

涼
 芦原風
 涼れあまかほのそら川婦人
 申しきれ名も知らぬ竹婦人
 庭掃子柳やあけの川婦人
 さゆのり子涼守もふし竹婦人
 雲の君やあしはら子竹婦人
 花もねと山もなすらや芦原風
 けしきり壁もよせや芦原風
 下れとく夕の涼し菊のあと
 涼風はあそびのこの梅の岸
 涼さもあつらまゝの柳の細う
 人々の涼をすしき川系哉

新左
 庭掃子
 花江
 重
 龍河子
 蝦丈
 蒼南
 祖江
 智貴
 東湖
 多々女
 あた

納涼巻
 すしきや小窓をあむ寸筋の糸
 涼しきや。暮るんちを言用言
 柳の岸あつて涼しや掛すこれ
 月代をえき涼しき堀山哉
 暑すし皆生るん。朝の魚
 月涼し。暑れ中り水に音
 まじしや。葉毎のあまねる
 青空の木のうらえき。涼し
 涼しさを器に持や水音
 井の面よ。あそびの納涼巻
 夏あそび。柳を吹すや。巻
 月の光。涼し人あつて。巻

旭
 二
 只
 具
 旭
 派
 山
 富
 富
 路
 巨
 馬
 藏
 富
 富

納涼

合歡の葉を冠て持て舟にすま
 月うさぎの夜をわたり納涼舟
 子枕を羨むるや中納涼
 直ふ瀬に柳もあさす涼を我
 茶やをまきすくはや推一本
 秋かりの世のわたり納涼の春
 露も子や安らぎ中納涼
 以方へ斗り人ゆゑ納涼我
 橋をわたり涼をわたり人ゆく
 申すむ常とそ出たり夕す子
 申さぬて足に樹の下に涼を我
 水音をわたり安らぎ涼をわたり

一具 小艇 思山 免白 惟号 支山 徳外 岸灘 深野 峰丸 一素 粟人

十廿五

風薫

萬葉の風を冠て持て舟にすま
 月うさぎの夜をわたり納涼舟
 子枕を羨むるや中納涼
 直ふ瀬に柳もあさす涼を我
 茶やをまきすくはや推一本
 秋かりの世のわたり納涼の春
 露も子や安らぎ中納涼
 以方へ斗り人ゆゑ納涼我
 橋をわたり涼をわたり人ゆく
 申すむ常とそ出たり夕す子
 申さぬて足に樹の下に涼を我
 水音をわたり安らぎ涼をわたり

舟 玉 松 二 唐 二 新 由 岸 一 山 象 友

青嵐

流れる水や木の葉風薫る
松葉や松子のそよぎ青嵐し
木の葉の水遣ひりや青嵐し
折るすりわらの中や青嵐
笠指をゆるぐ人お青嵐し
海川をわたり龍巻や青嵐
雲崩しあふや青嵐し
水より花きつと新や青嵐し
坂のゆるぎ人見え青嵐し
多きうらや池の静さの青嵐
初と吹く雨もささや青嵐し
おまよふあまの井の古茶うり所

船尾 松尾 双柳 右岸 友南 姉牛 湖立 古山 都島 尾崎 編崎

赤水

睡井

赤水のまろけや青や垣の田
おまよふ階の窓の下りそよぎ
うら水や夜子りあふ一羽
おまよふゆるは流すや池り流
赤水やものほほむなをよ
さし井や泥けり新のまや柳
さし井や夕影けり水のみむ
睡井のり人数あふ木のもえ
さし井や柳のまよりし赤の舟
吹返り赤舟のまよりし赤の舟
奈はまのりそよぎの赤水哉
流るま計流あふや海川

曾黄 赤年 赤山 赤山 赤山 赤山 赤山 赤山 赤山 赤山

清水

柳

与切

崎多し人々を引込りて
 龍はし柳を志し行こ
 与切やとふれも岩の結
 与切や丹を仕着る身
 与切や岩の結あり藤の申
 押水やと切の事里
 与切や何の事つと事
 新水や柳を結の事
 又と柳を結しと事
 志の柳を結之月や結乃
 志ん柳や苗代あり水
 新水や水とつと事

龍 小 祖 由 梅 斗 与 龍
 江 河 之 叔 石 末 松 岩 口 見

新

智

水新

川せよのまきと水その新
 龍も川せよ目を破り
 智新水あり水結我
 百風よ志のあいあり水
 橋先も水結我水新
 志ん柳も水結の事と事
 志ん柳も水結の事と事
 志ん柳も水結の事と事
 志ん柳も水結の事と事
 志ん柳も水結の事と事
 志ん柳も水結の事と事

新 小 祖 由 梅 斗 与 龍
 江 河 之 叔 石 末 松 岩 口 見

蝙蝠

初巻

巻

うき沈... 田... 子... 中... 一... 鴨
孫... 者... 如... 女... 江... 中... 色... 一... 一...
蝙蝠... 中... 足... え... へ... へ... へ... へ... へ...
蝙蝠... 中... 月... の... 出... へ... へ... へ... へ... へ...
一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

石 宗
紫 遊
友 甫
好 静
一 亭
善 水
祖 心
味 金
栗 人
友 甫
奥 聖

龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...
龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍... 龍...

龍 年
一 池
由 推
一 不 什
一 馬
後 風
宮 黃
梅 字
季 吟
市 物
杉 院
象 推

深して花立井戸の管の那
 管の心やそあはき徳と有年
 軒竹の咲き乃本さるう那
 管もたそ花のくんの管の事
 深に下る新中管の道の事
 本に遠くは光り花のき管我
 花の子や柳のくわら寸程さ
 花の子はあはるや心管の管
 柳の子や柳引く花の紙の上
 花の子は風も花のくわら
 花のきさささささささ
 花のや葉はあは枝のくわら

社
 善
 信
 世
 花
 吾
 承
 山
 承
 外
 好

脚の子

枝蛙

枝蛙の尻のくわら
 花の管の心
 花の子はあはる
 花のきさささ
 花のや葉はあは枝のくわら

水馬
 子子
 子子
 子子
 子子

毛虫
 子子
 子子
 子子
 子子

水馬
 子子
 子子
 子子
 子子

菅
 丸

繩 經

船月は舞殿しり水鳥
 ありはしきるはあしははあ
 油油へまきまき水すし
 油油まきまきあやの
 一人はまのく人かあ
 山部戸骨木あつあつ
 へあうははははははは
 尻ははははははははは
 何之他もはははははは
 留まの戸まきまきまき
 留まの戸まきまきまき
 ありまのしりまきまき
 ありまのしりまきまき

吾年 住家 英泉 阿水 粟人 中人 暮海 吾岩 叟六 御風 年月

羽 儀

巻

被るをまきまきまき
 被るをまきまきまき
 雨晴やくまきまきまき
 かうまきまきまきまき
 羽のまきまきまきまき
 朝下人のまきまきまき
 きれまきまきまきまき
 南天のまきまきまき
 一とまきまきまきまき
 舞子舞子舞子舞子
 舞子舞子舞子舞子

吾年 住家 英泉 阿水 粟人 中人 暮海 吾岩 叟六 御風 年月

蠶牛

蠶牛の事、内も紫澤の柱う年
 露酒の更始の中、此般を我
 手取の家や好者の、
 新先、八月、酒中、
 中、
 門、
 了、
 富士も、
 作、
 了、
 行、
 久、

青
 由
 木
 融
 化
 乙
 文
 青
 枝
 茂
 梅

油

墓

火取虫

義、
 水、
 油、
 通、
 以、
 兄、
 衆、
 新、
 即、
 出、
 兄、
 二、

白
 青
 青
 一
 白
 文
 二
 爾
 素
 良
 作
 吟

人の聲はくさくさ新柳哉 素山
 二階より見たり寸節の新柳うき 可
 石白く小川の青き新柳哉 青
 人音は神も聞くまん柳うれ 中
 後一人の下跡もその新柳哉 婦
 月も空も風も晴も霞りう柳 好
 古屋の水掛も青き霞りう柳 山
 ぬらぬら川も青き霞りう柳 南
 柔らかな柳も青き霞りう柳 直
 朝露の青き霞りう柳 河
 波の青き霞りう柳 直
 ありあり波の青き霞りう柳 杜
 山

友

木下書

〇常中友のあけしは北まね 宗二
 〇あそびも中友も多し鹿の鹿 河
 水音の青き霞りう柳 友
 柳申も青き霞りう柳 友
 我々先之のあけしは北まね 二
 遙く葉の青き霞りう柳 好
 〇あそびも中友も多し鹿の鹿 波
 下書も中友も多し鹿の鹿 怡
 〇あそびも中友も多し鹿の鹿 一
 友木立枝の青き霞りう柳 芭
 〇あそびも中友も多し鹿の鹿 双
 柳も中友も多し鹿の鹿 柳
 〇あそびも中友も多し鹿の鹿 怡

友木立

牡丹

牡丹の花はあけのぼる
 牡丹の葉はあけのぼる
 牡丹の枝はあけのぼる
 牡丹の根はあけのぼる
 牡丹の土はあけのぼる
 牡丹の石はあけのぼる
 牡丹の月はあけのぼる
 牡丹の日はあけのぼる
 牡丹の星はあけのぼる
 牡丹の雲はあけのぼる
 牡丹の雨はあけのぼる
 牡丹の雪はあけのぼる
 牡丹の風はあけのぼる
 牡丹の雷はあけのぼる
 牡丹の電はあけのぼる
 牡丹の火はあけのぼる
 牡丹の水はあけのぼる
 牡丹の土はあけのぼる
 牡丹の石はあけのぼる
 牡丹の月はあけのぼる
 牡丹の日はあけのぼる
 牡丹の星はあけのぼる
 牡丹の雲はあけのぼる
 牡丹の雨はあけのぼる
 牡丹の雪はあけのぼる
 牡丹の風はあけのぼる
 牡丹の雷はあけのぼる
 牡丹の電はあけのぼる
 牡丹の火はあけのぼる
 牡丹の水はあけのぼる

芍薬

芍薬の花はあけのぼる
 芍薬の葉はあけのぼる
 芍薬の枝はあけのぼる
 芍薬の根はあけのぼる
 芍薬の土はあけのぼる
 芍薬の石はあけのぼる
 芍薬の月はあけのぼる
 芍薬の日はあけのぼる
 芍薬の星はあけのぼる
 芍薬の雲はあけのぼる
 芍薬の雨はあけのぼる
 芍薬の雪はあけのぼる
 芍薬の風はあけのぼる
 芍薬の雷はあけのぼる
 芍薬の電はあけのぼる
 芍薬の火はあけのぼる
 芍薬の水はあけのぼる
 芍薬の土はあけのぼる
 芍薬の石はあけのぼる
 芍薬の月はあけのぼる
 芍薬の日はあけのぼる
 芍薬の星はあけのぼる
 芍薬の雲はあけのぼる
 芍薬の雨はあけのぼる
 芍薬の雪はあけのぼる
 芍薬の風はあけのぼる
 芍薬の雷はあけのぼる
 芍薬の電はあけのぼる
 芍薬の火はあけのぼる
 芍薬の水はあけのぼる

かりすむ家も竹を植ふなり
 植取も新へる竹のまゆし
 植す時一本の音や竹の音
 竹へる石垣へる音くきり
 月影やるるまゆく竹の植は
 竹へる音のさあきおぼえ
 すのよふきの小細き烟の細り
 毛のけりや流るる水
 第の傍りのしるや竹の陰
 竹の子や木まうらるる木
 多けりや地をん流るる水
 きてあや思ふも過す矢竹の子

由 櫻
 白 花
 宮 岩
 子 相
 梅 二
 竹 阿
 江 之
 白 乾
 由 花
 多 木
 梅 室

竹 子

竹の子やあけし傍のいと家
 第や甘の音なり二三寸
 多けりや根もまうらるる木
 竹の子の伸もまうらるる木
 空豆やをりてはるる
 空豆のむや花の村隣り
 紫花の香や花の中の花
 咲や花のまわ立 志を 細
 鈴を焼くは 志を 細
 鈴の振る音と隣りて 志を
 鈴につく 志を 風をうきり
 鈴の 志を 風をうきり

曾 堂
 一 具
 在 室
 由 琴
 紫 迹
 志 室
 蕙 迹
 暮 浦
 祖 心
 在 峨
 於 曉

空豆 紫花 麦花 琴

推古

西の孔流きとありや 養の養 雪年
 養の孔流きとありや 推古の推 涼古
 推古の推古とありや 推古の推 旭高
 推古の推古とありや 推古の推 伯老
 推古の推古とありや 推古の推 可應
 推古の推古とありや 推古の推 龍友
 推古の推古とありや 推古の推 素山
 推古の推古とありや 推古の推 三沼
 推古の推古とありや 推古の推 一素
 推古の推古とありや 推古の推 洗之
 推古の推古とありや 推古の推 雪登

十四十九

栗花

振花

望と推古とありや 推古の推 嵐高
 望と推古とありや 推古の推 双危
 望と推古とありや 推古の推 祖心
 望と推古とありや 推古の推 一素
 望と推古とありや 推古の推 乙良
 望と推古とありや 推古の推 清氏
 望と推古とありや 推古の推 菅丸
 望と推古とありや 推古の推 龜年
 望と推古とありや 推古の推 竹柳
 望と推古とありや 推古の推 青林
 望と推古とありや 推古の推 里忠
 望と推古とありや 推古の推 抱儀

十草

著莪

一八

山越々初々水竹有草著莪
 坂口の砂々雪ついで雪ついで
 十草の草竹少雨のつや
 十草竹風ささくぬちのし
 著莪の草垣をまよひて内と外
 雨を著莪の庵むななり哉
 里携りや社の上北志やのり
 掃らるる蚕の糞や著莪の
 一八や朝晩粟ののり汁
 一八や牛つねの家のはのり
 一八や笋高れおけし味

一具 由 一 法 波 石 嵐 越 斗 山
 一 具 由 一 法 波 石 嵐 越 斗 山

撰子

石竹

青梅

草うすお撰子の世さう那
 撰子や誰のうすおし杖のあと
 一草の竹を霜打や雪撰子
 雨し子あまや細の竹
 撰子の世のあけは味あり
 雪し子や机の飽きるはさし
 雪し子や雪うけは雪撰子
 石竹や朝と暮の雪や雪
 石竹一樹や雪北あまり水
 青梅や雪と雪をわす梅の雪
 青梅や雪と雪をわす梅の雪

一具 由 一 法 波 石 嵐 越 斗 山
 一 具 由 一 法 波 石 嵐 越 斗 山

若花

五子平身まきうしそ女人者 二葉遊
 夏州の露やまのり日のあけの 池
 朝夕を照さふつ申や若のち 柳
 湖の木の影相やあけのち 多
 けり木のありせらるる若のち 香
 おやまゝははは引や若のち 田
 うらうらとて若のちや若のち 山
 更に此思ひまきやあけのち 小
 かしきまのちまのち若のち 花
 破露や露のち若のち 花
 うらまゝははは引や若のち 花
 朝夕を照さふつ申や若のち 花

破露

花のち

紅花

ままにしそ花木海やまのち 花
 古塚の四のちやあけのち 花
 朝夕を照さふつ申や若のち 花
 うらまゝははは引や若のち 花
 更に此思ひまきやあけのち 花
 かしきまのちまのち若のち 花
 破露や露のち若のち 花
 うらまゝははは引や若のち 花
 朝夕を照さふつ申や若のち 花

紅花

朝夕を照さふつ申や若のち

花のち 花のち 花のち 花のち 花のち 花のち 花のち 花のち 花のち 花のち

青芭

生れぬ家外の妻あり約蕙 妻あり
 約蕙の柳の影の月 月
 名宿とて名をぬらや約蕙 文叔
 名宿とて名をぬらや約蕙 由松
 青芭野の虫海 尺池
 青芭吹や竹の夕めし 大鵬
 蝶のつゝ病めれり青芭 瀬下
 舟をさるる中めや青芭 祖心
 押水や海の方よ人の毎門 可合
 伸る人の子をさし海あり 乙良
 此中よ人の名をぬら海の丈 城善
 静さ此麻よ名をぬら海の丈 月

麻

雛也

水青と月とあつや海の中 木法
 雨のそよ風りさる雛の也 昔久松
 夕霧の上の青さめ雛の也 雲善
 見ぬのあや見ぬ雛の也 雲善
 見ぬのあや見ぬ雛の也 雛心
 見ぬのあや見ぬ雛の也 由松
 見ぬのあや見ぬ雛の也 郭池
 見ぬのあや見ぬ雛の也 小柳
 見ぬのあや見ぬ雛の也 三沼
 見ぬのあや見ぬ雛の也 美人松
 見ぬのあや見ぬ雛の也 猿新
 見ぬのあや見ぬ雛の也 為山

若柳

浮糸

蓮花

高年優為新孫
公冊



